

2 学年〇組 数学科学習指導案

1 単元 連立方程式の利用（2時間完了 本時2／4）

2 本時の学習指導

（1）本時の目標

- ① 学校に間に合うための出発時間と走った時間について、自分の考えをもつことができる。
(思考・判断・表現)
- ② 例題の考え方を利用し、日常生活に関わる問題を連立方程式や速さの比較などを活用して解決しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

（2）本時で意識する教科の見方・考え方

連立方程式や速さの比較をすることで日常の問題を解決することができると考え、それぞれのよさに気づくことができる。 【論理的な見方・考え方】

（3）展開

段階	生徒の活動	教師の活動
つ か む 5分	1 代表生徒の実際の通学距離や速さ、時間を把握し、理想の時間で学校に到着できるかを考える。 2 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・代表生徒の家から学校までの距離や速さ、何分で学校に到着したいかの資料を提示し、理想の時間に学校に到着できるかを問う。 ・学習課題を提示する。
自分の理想の時間に学校に到着するためには何時に家を出ればよい？		
も ち よ る 40分	3 歩きと走りの時間を求めていくための方法を考える。 4 考えた式が成り立つかどうか、班で意見交換をする。 5 代表生徒の結果を発表する。 6 距離や速さ、理想の時間を自分の場合に変えて問題に取り組む。 7 問題を解いて、それぞれの解き方のよさを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の状況を把握しやすくするために、図を使って、速さ、時間、距離の関係を整理する。 ・<u>連立方程式を利用して解決している生徒と速さの比較によって考えている生徒を意図的指名する。</u> 【発問】「自分が設定した問題でも何時に家を出ればよいかを求めることはできるのか？」 ・複雑な計算は、電卓を使用してよいと伝える。 ・連立方程式と速さの比較によって解く方法のそれぞれのよさについてまとめる。
ふ り か え る 5分	8 本時を振り返り、わかったことや学んだことを記入し、発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・他の日常生活にある問題も連立方程式で解決できるのか調べてみたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式を活用した解法が理解できるように、本時の学びを見直す時間を設ける。 ・生活に関わる問題と数学との関わりを確認できるように、日常生活と数学の関わりに着目した生徒に発言を求める。

（4）評価

- ① 歩きと走りの2つを上手に組み合わせることで学校に間に合うことができると気づき、問題を解決するために自分の考えをもつことができたか。（3、4、5のようすやワークシートから）
- ② 求めるべき部分を文字で表し、連立方程式を利用したり、歩きと走りの速さの比較によって走る時間を求めようとしたりして、問題を解決することができたか。
(6、7、8のようすやワークシートから)